

総合評価

受診施設名	H a n a 花 保 育 園	施設種別	保育所 (旧体系 :)
評価機関名	社団法人 京都府保育協会		

平成 2 5 年 3 月 1 日

総 評	<p>H a n a 花 保 育 園 は 平 成 1 5 年 に 開 設 さ れ た 保 育 園 で、 兄 弟 園 の 三 室 戸 保 育 園 と 連 携 し、 午 前 7 時 か ら 午 後 1 0 時 の 長 時 間 保 育 を 実 施 し て い ま す。 J R 宇 治 駅 前 の ビ ル の 中 に あ る 保 育 園 で す が、 ベ ラ ン ダ 部 分 に 緑 を 取 り 入 れ た 園 庭 が 作 ら れ、 室 内 に は 自 然 物 を 使 っ た 装 飾 が 施 さ れ る な ど、 子 ども た ち が 日 常、 自 然 を 感 じ な が ら の び の び と 活 動 が で き る よ う な 工 夫 が 随 所 に さ れ て い ま す。</p> <p>『日常的なしあわせを創造する』という法人の理念のもと、Ⅰ. 人間や社会を愛する力 Ⅱ. 自分で好きなあそびを見つけ、あそびを満喫する力を育てる Ⅲ. 基本的生活習慣の涵養 Ⅳ. なかよく生活する力を育む Ⅴ. ありがとうの心を育む を保育の基本方針とし、<生きるための基礎となる力>を育てることを保育目標としています。</p> <p>保育内容については、3歳以上児は三室戸保育園へ移動し、園庭や園外活動など、より充実した保育実践が行われています。3歳未満児の子どもたちはゆったりとした環境で個々の生活リズムを大切にされた保育が行われています。また、長時間保育への配慮として、3歳未満児は親子で過ごす時間を大切にしたいという思いから各家庭に合わせた登園時間に柔軟に対応したり、3歳以上児は保護者の選択で登園場所を決められるようにしたりするなど、園児や保護者の状況に配慮した取り組みがされています。園運営システム（ネットワークシステム）を取り入れ、運営管理が徹底されています。</p> <p>平成19年の受診後、評価内容を会議で共有、改善され、園運営システム（ネットワークシステム）が有効に活用されており、職員間の連携の深まり、業務内容の充実が見られます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・園運営システム（ネットワークシステム）を取り入れた運営管理がされています。「保育課程」をもとに「長・短期指導計画」「保育日誌」「発達経過記録・個別指導計画」「業務日誌」などの記録があります。そのため「環境チェック」や「事事故例」などを即座に閲覧でき、整合性のある記録となっています。記録と同時に評価、反省を行うため、リアルタイムに保育を振り返ることができ、保育の質の向上に繋がっています。 ・一人ひとりを大切にされた保育が行われています。個々の生活リズムに合わせた対応がされ、その日の活動内容や子どもの状態に応じ流動的な保育士の対応が行われています。保育士がどの子どもの状況も理解していて、スムーズに対応できています。保育時間が長時間ですが、どの時間でも保育士が保護者対応できるような勤務態勢を取り、「備忘録」により正確に引き継ぎが行われています。保護者の出入りがある時間帯も子どもたちは落ち着いた環境で遊んでいます。 ・子どもの遊びたい気持ちを引き出せるよう、コーナーが充実しており、子どもが扱いやすい形や大きさ、素材を生かした手作りの玩具が用意されていて、子どもたちもよく遊んでいます。 ・お迎え時間までに、保育の様子が写真入りで作成され掲示されています。文字だけでなく、写真が入ることで慌ただしい送迎時間でも、子どもの様子が良く伝わり、保護者の理解、安心へと繋がっています。

特に改善が 望まれる点(※)	・評価の根拠となる書面に関して一部、法人本部で保管されているものがあり、書面では確認出来ませんでした。園長から口頭で確認出来ましたが、今後は自園で準備されているとなお良いでしょう。
-------------------	--

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

保育所版 対比シート

施設(事業所)名	Hana花保育園
サービス種別	保育所
評価機関名	社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成25年3月11日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-2(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

・法人の理念、保育方針・保育目標は、「入園のしおり」や「わたしのほいくえんの本」、ホームページに明文化されている他、保育園の玄関にも掲示されており、広く周知されています。

・保育理念や保育方針・保育目標は、園運営システム（ネットワークシステム）の保育課程の中にも記載されており、保育計画を策定する際に保育士が確認できるようになっています。

・保育課程は、園運営システムの「保育課程検討シート」で地域の実態、子どもや家庭の状況などを考慮して、編成されています。

・指導計画の評価は、園運営システム（ネットワークシステム）での指導計画作成の際に、子どもと保育士の2つの視点から評価・改善できる仕組みになっており、次の計画に活かされています。

・園長は、毎朝三室戸保育園で行われているミーティングに出席し、その内容を昼のミーティングにおいて職員に伝達することで、法人内の連携を図るなど、園長がリーダーシップを発揮し、職員にとって働きやすい職場となっています。

・パソコンによる園運営システム（ネットワークシステム）は、職員の業務効率化に繋がっており、職員も有効に活用しています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。		A	A	
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

・園長は、京都府保育協会や宇治市内の園長会などで、保育制度問題や子育て環境の情報を集めるなど、事業経営をとりまく環境を把握しています。

・人事管理については、法人本部と連動して行われています。

・園長は、職員と年数回個別面接の機会を設け、職員の就業状況や意向を把握するように努めています。

・職員が職務に対して悩みなどがあった場合の相談窓口として、園長や主任が相談に応じる体制をとっています。

・職員の研修については、職員の研究テーマを各自が決め、「保育課程検討シート」に記入しています。また、毎年法人が主催する合同研修に参加したり、京都府保育協会の研修にも参加しています。

・研修終了後には、研修記録が作成され、それを全職員が閲覧することで研修内容の共有化を図り、保育に反映させています。

・実習生やボランティアの受け入れについては、マニュアルなどを作成し積極的に行っています。実習生に対しては、実習簿の書き方や指導案の作成などの指導を丁寧に行っています。

・地域との関わりにおいては、3階にあるファミリー・サポート・センターとの交流や、近くの商店街主催のフェスタや宇治市社会福祉協議会主催の福祉まつりに園児が参加することで交流を深めています。また、育児相談を行ったり、園の見学を随時受け付けることで保育所の機能を地域に還元しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

[自由記述欄]

・個人情報保護マニュアルを整備しています。苦情解決についても、マニュアルが整備されており、苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員の氏名を玄関に掲示しています。行事などの後にはアンケートを実施し、保護者の意見を取り入れる努力をしています。

・平成19年に受診しており、今回が2度目の第三者評価です。受診にあたり、全職員が評価項目をチェックし、分析をしています。職員間での評価の違いを園内で話し合い、協議を行っています。

・職員は、月間指導計画と保育日誌で自己評価を行い、職員間で共有しているなど、保育の質向上へ意欲的に取り組んでいます。

・入園面接の記録を園の様式で記録しています。記録の管理についても、園運営システムを使用する際に各職員のログインIDとパスワードを設定し、園児の個人情報の保護に配慮しています。

・保育を開始する際には、入園説明会やオリエンテーションを開催し、その際はパワーポイントなどを活用して、利用者にわかりやすい説明となるよう努力しています。また、園で子どもが使用する個人用保育用品などの購入に関しては利用者から同意書を得ています。

・転園する児童について、必要があれば引継ぎ文書を送付し継続性に配慮した対応を行っています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

[自由記述欄]

・パソコンで園児一人ひとりの健康状態を管理し、情報が共有されています。また、「日常における健康管理」というマニュアルも作成しています。

・健康診断や歯科健診などの結果は、受診日に連絡ノートに記載し、園内ではパソコンに記録し共有しています。また、嘱託医に、毎日園児の登園人数、健康状態を連絡し日々の保育に反映しています。

・毎日、栄養士が園児にむけてその日のメニューを紹介しています。また、子どもたちも落ち着いて食事をしています。

・各クラスの保育士がパソコンで毎日の喫食状況を記録し栄養士などと連携をとっています。

・毎日サンプルを掲示し、その日の献立や量をファイリングし保護者がいつでも確認できるようにしています。また、ブログにも本日の給食を掲載しています。

・アレルギー児には、医師の指示書のもと、除去食及び代替食を提供しています。また、アレルギー食のサンプルも掲示し、その内容はファイリングに綴じ込まれ、アレルギー食の状態をわかりやすく保護者に伝えています。

・各保育室に空気清浄機及び加湿器が完備されているなど、低年齢児向けに配慮された保育室の環境を工夫しています。園内に入る際は、消毒をするなど衛生管理に配慮し、保育室も清潔に整えています。

・子ども一人ひとりがくつろげる空間があり、生活リズムや体調に合わせて過ごせる環境が整っています。また、保育室は木目調で廊下などのすべての場所に自然物や手作りのモールなどが飾られ、落ち着いた環境の中で保育が行われています。

- ・ビル内の施設でもあり、積極的に園外保育を行う事で、自然物や地域の人たちに接する機会をたくさん取り入れています。
- ・各家庭に合わせた登園時間に柔軟に対応したり、担当制保育をされていたりと、個々の生活リズムや発達に配慮した保育を行っています。
- ・長時間保育の子どもに夕食を準備しています。保護者との連携を密に取り、また、職員間の連携はパソコンを活用し引き継ぎを行っています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

- ・年に一回、個人懇談を行い、また、クラス懇談なども年間を通して数回行っています。それらの記録は、パソコンに記録され、職員間で共有しています。個人の記録を継続して残す事で、前年度などの内容もすぐに確認できるようなシステムになっています。
- ・年に二回保育参加を実施し、遠足や運動会も親子で参加するなど、保護者と共に取り組んでいます。
- ・子どもの虐待防止マニュアルを作成し、連絡体制も整えています。
- ・子ども一人ひとりの発達記録などについてはパソコンで記録し整備しています。
- ・一時保育は担当職員を配置し、一人ひとりの子どもの状態に配慮した保育を行っています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

- ・衛生管理、食中毒発生時の対応や事故防止についてのマニュアルは整備され、園運営システムで職員に周知しています。
- ・安全チェックリストを活用し、毎日鍵開けや鍵閉めの際に環境チェックを行い事故防止などに努めています。また、変化があった際は、毎日職員全員が出勤時などに確認する園運営システムに記録し周知しています。
- ・事故や災害、不審者の侵入に対するマニュアルを整備しています。また、園のしおりに災害時の避難場所を記載し保護者に周知しています。